

「百世の安堵」〜津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産〜

# 日本遺産認定記念シンポジウム in 東京を開催

広川町の防災文化と防災遺産が紡ぐストーリー『百世の安堵』〜津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産〜が日本遺産に認定され、10月には広川町でシンポジウムが行われ、3月3日（日）には東京で開催されました。今回はその時の様子を紹介します。

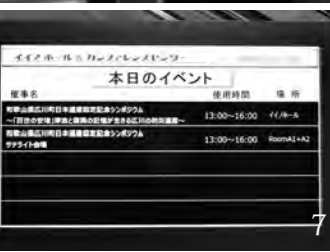


▲ホールからの景色

- ① 500名以上が訪れた日本遺産認定記念シンポジウム。
- ② 広川町の産品が並べられた物産コーナー。
- ③ みかんやジャム・ジュースの試食をする参加者。
- ④ 藤井さん、中江さん、西岡町長をパネリストとしたパネルディスカッション。
- ⑤ 中江さんの基調講演。
- ⑥ 東儀さんによるトーク&ライブ。
- ⑦ イイノホール&カンファレンスセンター。



1



7



6



5



4



3



2

シンポジウムは大盛況

3月3日（日）イイノホール&カンファレンスセンター（東京）で開催された広川町日本遺産記念シンポジウム。

当日は雨にもかかわらず、500名以上の来場があり、開場が12時30分にも関わらず、4時間前の8時30分から人の列が並びはじめ、1時間前には200名を超す列ができていました。

開場が始まると物産コーナーには多くの人が集まり、用意していたみかんやジュース・ジャムなどの物産はあっというまに無くなりました。試食した人の中には、「このみかん美味しい、購入するにはどうしたらいいの?」と関心を示す方も多く、町の特産品を十分PRすることができました。

シンポジウムは、西岡町長の開会の挨拶から始まり、来賓として出席されていた山本順三内閣府防災担当大臣は祝辞の中で、「先人からの警鐘を防災文化、防災遺産として受け継ぐことは、災害時に大変大きな力を発揮することになる」と述べられました。

女優で作家の中江有里さんによる「歴史を学び、歩みだすこと〜広川町防災遺産〜」と題した基調講演では、中江さん本人が広川町を訪れた時の様子がスクリーンで映しだされ、広川町の日本遺産ストーリーをわかりやすく伝えてくれました。その後は、パネリストの藤井さんや雅楽師の東儀秀樹さんによる「日本が誇る伝統文化を次世代へ」と題したトーク&ライブが行われ、東儀さんの神秘的な演奏に会場は感動と拍手の渦に包まれました。

シンポジウム参加者からは「広川町のことを知らなかったけど、学べてよかった。行ってみたいになった。」「昔広川町に住んで、もうだいぶ変わってるんだらうな」など、反響も大きく広川町の防災文化を都市部に向けて発信するという所期の目的を十分に達成することができました。

